

誇りや生きがいをカネで換算!?

茨城農民連・県西農民センターから紹介があって、常陸大宮市の山間に養豚農家を訪ねてきました。母豚を75頭も飼育している有限会社です。

＊

この機会に、養豚生産の現場について少し説明してみましょか。

豚を飼っている農家は、昔は子豚を生産・出荷する繁殖経営とそれを導入して大きくして肉豚として販売する肥育経営とに分かれていました。それが今は子とり繁殖から肥育までをおこなう一貫経営がほとんどになっています。

母豚は、1回に10数頭の子豚を出産します。この子豚が大きく育てられて、肉豚として出荷されるわけですね。

1頭の母豚は、1年に2回ちょっとのサイクルで出産します。ちなみに人間のばあい「十月十日」とされる妊娠期間ですが、豚は「三月三週三日」と言われます。

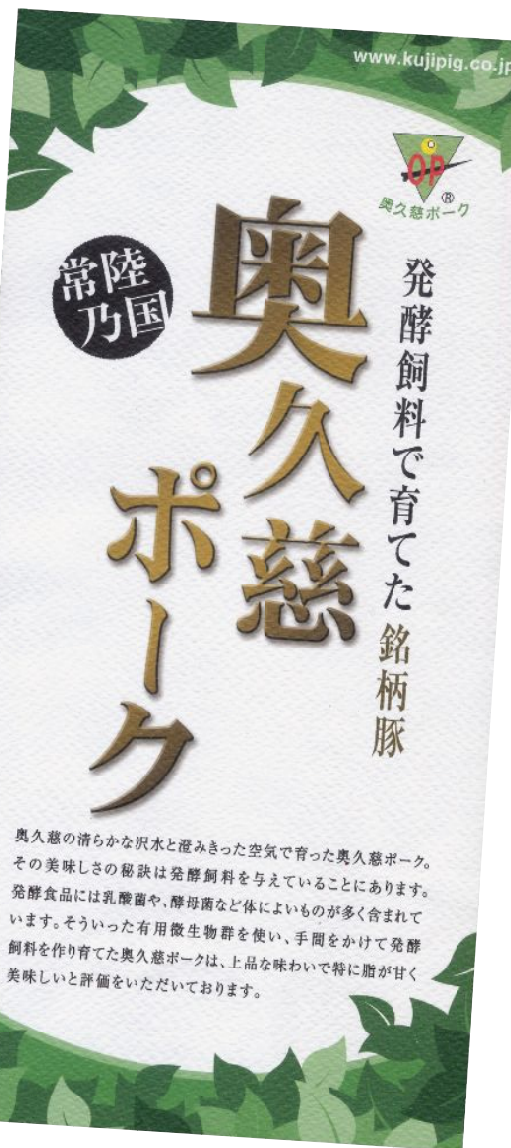
とはいずれも30年くらい前に勉強したことなので、要注意。古くなっている知ったかぶりかもしれません；

＊

さて今回訪ねた養豚農家。冒頭に書いたとおり、母豚が75頭という規模。ざっと年間、1万7千頭ほどの肉豚を出荷しています。茨城県内でも有数の大規模経営です。10数人の従業員さんも働いています。

それが原発事故による放射能の影響で、とくに夏以降、関西方面への肉豚の出荷が滞り、投げ売りも余儀なくされて、損害が累積していました。そして、その被害を市役所に訴えても、賠償請求などについての援助はしてもらえないでいたのです。

さっそく東電の損害補償相談センター



奥久慈の清らかな沢水と澄みきった空気で育った奥久慈ポーク。その美味しさの秘訣は発酵飼料を与えていることにあります。発酵食品には乳酸菌や、酵母菌など体によいものが多く含まれています。そういった有用微生物群を使い、手間をかけて発酵飼料を作り育てた奥久慈ポークは、上品な味わいで特に脂が甘く美味しいと評価をいただいております。

に連絡をとって、担当者(現地に足を運ばせました。

計算すれば、もちろん具体的な金銭的損害も大きな額になります。しかし、それ以上にと言っているのか、社長さんが「これが一番こたえる」と肩を落としていたことがあります。

参照してほしいのが上のメニュー。この養豚場では「奥久慈ポーク」という独自のブランドを育ててきていたのです。発酵飼料をくふうするなど、生産面でも努力し、コストもかけてきました。NHKテレビでも2年連続で取材に来てくれたとか。知名度も高ま



里のギャラリー 193

てきた矢先、今回の原発事故が起きたのでした。

肉豚の買い手側である卸業者からは「奥久慈という地名をかぶせたのでは、もう売れない」と言われてしまっているのです。これまでの努力と、これからの展望を無にしかねない事態です。

この痛手を、加害者として東電はどう償うのか。これまでの事例はあるのか。問いかけてみましたが、その場に来た東電の社員は知らないとの返答。すぐ確認もしくは検討して、連絡をくれるように求めました。

それから1週間たっても連絡がないので、こちらから電話をしました。って、この対応も不誠実すぎるぞ、東電!

で、電話口で東電サマがたまには、「ブランドというのは、それによって価格が高くなり、販売量も多くなることを期待できるということですよ」

結局、カネでよと言わんばかりの返答でした。人の誇りや生きがいをカネで換算できるのか。とても他人事とは思えないし、納得できるものでもありません。

＊

同社長さん「北茨城のほうは津波の被害も大きいのでしょう。仕事を探している人がいたら、うちでも受け入れることができるよ。住むところもあるよ」とのことでした。付記します。